

水稲の植傷み防止に関する試験

清松清高, 村上雅二, 近藤 信
(大分県農業試験場)KIYOMATSU, K., MURAKAMI, M. and KONDO, M.
Studies on the Application of O. E. D. Green to the Transplanting Rice

水稲の移植栽培で挿秧後の萎凋植傷みは決して好ましいものではない。特に晩期栽培の如く生育日数の短い場合はその影響も大きい。筆者等はこの植傷み防止に OED グリーンを用いて挿秧後の萎凋を防ぎ活着の促進をはかる目的で試験を行つたので結果の概要を報告する。尚試験の実施にあたり御指導を賜つた加島場長、田原作物部長に深謝の意を表す。

試験方法

試験は1961年～62年に行ない61年は農林22号の29日苗を8月10日植、62年は農林22号の30日苗を8月13日植で実施し更に発根調査のみを農林18号の6月30日植、農林22号の7月27日植で行つた。苗の処理は OED グリーン30倍液に地上部を浸し過剰な乳液を振落して移植した。移植時刻は両年共15時頃とし施肥量等は一般の栽培法に準じた。

試験成績及び考察

移植期の天候は62年6月30日植の移植後6日間連続降雨のあつた以外は各試験期共晴天であり、中でも61年は日照も多く植傷の多い条件であつた。

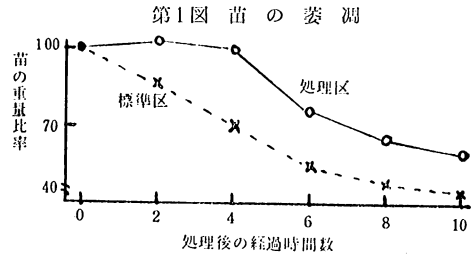
苗の萎凋について62年8月13日植の苗を地上に放置して萎凋の進行をみた。その結果第1図に示す如く処理苗は蒸散が抑制され苗重の減じ方が少く4時間後で30%、10時間後に20%程度の差が標準苗との間にみられた。

発根については苗と挿秧時の天候に密接な関係があるように植傷みの大きい場合程顕著な効果を示し何時も一定はしていないが第1表の如く処理区の発根が促進される傾向はある。

植傷みと生育については第2表の如く移植後の枯死葉も標準区の20%に減少し出穂前の9月10日の調査で草丈2%茎数4%と僅か乍ら増加し成熟期の稈長穂長は大差なく穂数は5%増加している。

出穂成熟期には差異はないが収量では第3表の如く粗重、わら重共処理区が増加し粗/わら比も高く効率のよい生産がされている。

厩肥は僅に多く粗摺歩合は低下したが玄米重で37.7



第1表 発 根

試験時期	1962年				1961年	
	6.30植～ 7.5調	7.27植～ 7.30調	8.13植～ 8.18調	8.10植～ 8.12調	8.10植～ 8.12調	
品 種 名	農林18号		農林22号		農林22号	
項 目	根数	総根長	根数	総根長	根数	総根長
標 準 区	本 11.6	cm 43.3	本 10.2	cm 45.1	本 19.7	cm 111.2
処 理 区	本 11.6	cm 45.9	本 12.1	cm 53.8	本 19.7	cm 120.1
比 率 %	100	106	119	119	100	108
					169	265

第2表 植 傷 と 生 育

調査時期	8月29日		9月10日		成 熟 期		
項 目	枯 葉 率	草 丈	茎 数	稈 長	穂 長	穂 数	
標 準 区	% 10	cm 82	13.8	cm 79	cm 18.7	本 17.0	
処 理 区	2	84	14.4	80	18.9	本 14.2	
比 率 %	20	102	104	101	101	105	

第3表 収 量

項 目	a 当		粗/	a 当		比率	a 当	
	精	粗		精	粗		粗摺	歩合
	kg	kg	%	kg	%	kg	%	
標準区	42.4	49.0	87	35.2	100	0.8	82.9	
処理区	46.9	51.3	91	37.7	107	1.0	80.3	

kgと7%増収した。

ま と め

萎凋植傷みの多い晩期の移植稲に OED グリーン30%液を使用した。その結果 OED 処理することで苗の萎凋は軽減し、発根が促進され枯死葉も少く活着が促された。このことが結果的に穂数の5%増となり粗/わら比率の高い好ましい生産がなされ収量も7%程増収した。